

平成14年 7月22日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田良一広島大学環境科学ネットワーク(広島大学ES-Net)
設立総会について

このことについて、下記のとおり開催されますので、お知らせします。
なお、取材につきましては、総会の冒頭より取材いただけます。
おって、総会終了後、約30分間の記者会見の時間を設けております。

記

- 日時 平成14年7月26日(金)17時～18時
場所 広島大学事務局 5階 5F2会議室
次第 1. 挨拶(山西副学長)
2. [広島大学環境科学ネットワーク設立の経過](#)
3. 規約(案)の提案
4. [役員\(案\)の提案](#)
5. [活動方針\(案\)の提案](#)
6. 幹事会について
7. 事務局の設置について
8. メーリングネットについて
9. その他

【お問い合わせ先】

広島大学大学院生物圏科学研究科
教授 中根 周歩

TEL:(0824)24-6510

広島大学大学院国際協力研究科
教授 松岡 俊二

TEL:(0824)24-6920

[発信枚数;A4版 5枚(本票含む)]

広島大学環境科学ネットワーク(広島大学ES-Net)

1. 設立の趣旨

広島大学には自然科学分野から社会科学分野・人文分野にわたって、様々な環境科学に関連する教育・研究を展開している多様な大学人がいます。しかし、それぞれの所属部局の壁や専門分野の垣根によって、こうした多様な環境科学に係わる研究者の交流はこれまで十分でなかったように思います。

環境の世紀といわれる21世紀がスタートした今、1992年のアースサミットから10年が経過しヨハネスブルグ・サミット(リオ+10)が開催されたり、我国では総合科学技術会議が科学技術政策において環境分野を四つの重点分野の一つに掲げるとともに、環境科学技術研究を省際的、総合的、俯瞰的に推進することを謳っています。環境研究には公害対策的な個別研究から現象解明、影響評価、対策にいたる総合的な取り組みが求められ、当然環境科学にかかわる大学における研究教育でも、新たな学際研究や文理融合アプローチの必要性が強調されています。本学においても、こうした学際的・文理融合型環境研究や環境教育を充実させていくことが重要だと考えます。

私達は、本年2月に広島大学主催で行った「内閣府・総合科学技術会議における環境分野の科学技術政策に関する意見交換会」を準備・実施する過程で、以上のようなことを強く感じ、広島大学の環境科学に係わる大学人のネットワークを形成することを構想し、ここに多くの皆さんが本ネットワークへ積極的に参加されることを呼びかけるものです。

このネットワークは、広島大学環境科学ネットワーク(略称、広島大学ES-Net)と称し、広島大学の環境科学に係わる大学人の相互の情報や意見交換をベースに、大学人による多様な環境教育プログラム、研究プロジェクトを産み出す、柔軟な21世紀型ネットワークとして機能することを目的として計画しています。また、本学における環境研究および環境教育を一層活性化し、世界における環境科学に関する教育研究拠点大学となることを目指します。さらに、中四国などの他大学・研究機関との連携を推進し、総合科学技術会議や各省庁の環境部門との意見交換や意志疎通及びこれらの機関への提言をしたり、地域社会からのさまざまな環境関連の要請に積極的に対応するなど、地域社会に大学の研究成果を還元し、また瀬戸内圏環境保全の総合的研究などの多様な文理融合型プロジェクト研究を推進します。

2. 組織

1) 広島大学ES-Netは、環境研究教育に関心をもつ大学人によって構成され、当面学内の任意団体とする。ネットワークへの入会や脱会は本人の意思によって行うとし、ネットワークが個人の教育研究活動について制約を加えることはないものとする。学内に環境関連の部局や組織とは情報交換をはじめとする、連絡・連携を密にする。

2) 運営のために顧問(若干名)、幹事会(20~30名程度:代表1名)、事務局(5名程度、幹事を兼ねる)を置くこととする。顧問は、ネットワークの運営に関して助言する。幹事会はネットワークとして取り組む研究プロジェクト、教育プロジェクト・プログラムの提唱やその推進を担う。また、幹事長(1名)はネットワークを代表する。事務局はネットワークシステムの維持管理や幹事会の事務を担当する。

3) 参加者はネットワークのメイリングリストに加わり、このインターネットシステムによって自由に

情報や意見を発信したり、情報を享受することができる。

4) 運営費は参加者が任意に供出する外部資金で賄う。

広島大学環境科学ネットワークの役員(案)

- 顧問： 牟田泰三(学長)
- 幹事長： 山西正道(副学長)
- 常任幹事： 安藤忠男(学長補佐)、斉藤公男(国際協力研究科長)、
佐々木博司(工学研究科長)、田中春彦(学校教育学部長)、
堀越孝雄(総合科学部長)、山本義雄(生物圏科学研究科長)、
西嶋 渉(中央廃液施設長)
- 幹事： 上 眞一(生物圏)、大竹久夫(先端物質)、太田 茂(薬学)、
岡田光正(工学)、奥山喜久男(工学)、梯 正之(医学)、
金子 新(工学)、佐久川弘(生物圏)、桜井直樹(総合科学)、
白根福栄(教育)、出口博則(理学)、戸田常一(経済)、
富井利安(総合科学)、長澤 武(高等教育)、西尾尚道(先端物質)、
早瀬光司(総合科学)、馬場栄一(情報サービス)、
福岡正人(総合科学)、藤原章正(国際協力)、松田 治(生物圏)、
村川三郎(工学)、森川弘道(理学)
- 事務幹事： 中根周歩(生物圏)、河野憲治(生物圏)、小松登志子(工学)、
奥村 誠(工学)、松岡俊二(国際協力)、金子慎治(国際協力)

広島大学環境科学ネットワークの活動方針(案)

1. メーリングネットワークの構成
 - 1) 会員のメールアドレスの整備とネットの立ち上げ及び使用規則の整備
 - 2) 環境科学関連の部局, 施設とのメーリング連結
 - 3) 学外の環境科学関連のメーリングネットとの連結
 - 4) 事務局におけるメーリングネットの管理(事務局担当者:金子)

2. メーリングネットを用いた情報交換とその積極的活用
 - 1) 学内外からの情報の提供及び会員からの提案, 意見の発信

3. ネット会員の個々の活動への支援
 - 1) 学内外の環境関連機関, 団体や個人への連携, 支援
 - ・ 総合科学技術会議との意見交換会: 中四国の大学に呼びかけて大学間 の実行委員会を構成し行う。
 - ・ 自治体や民間団体からの要請に応じて講師の派遣
 - ・ 産官学連携教育プロジェクトの推進
 - 2) 研究プロジェクトの組織化への支援
 - ・ 大型プロジェクトの組織化
 - 3) 教育プロジェクトの組織化への支援
 - ・ 環境科学関連の教育プログラムの現状調査とその推進
 - 4) 学内環境科学関連の施設, センターへの支援